

ダメージジーンズに惹かれた私

恵明中学校3年 吉田 有李

「最近、無理していない？大丈夫？」

担任の先生から、よく声を掛けられる。少しぼんやりとしているだけでも、頑張りすぎて疲れていないかと心配される。勉強にも部活にも熱心に取り組む、「真面目で、しっかり者」それが私の学校でのイメージだ。

ある日、私は母と一緒に買い物に出かけた。何気なく服を見ていた時、強烈に私の目を惹きつけたもの。それは大きな穴がいくつも空いた所謂「ダメージジーンズ」だった。「これを着こなせたら、どんなにカッコイイだろう。」普段は着ないタイプの服を片手に遠慮気味に母に買っても良いか尋ねた。ディスプレイのマネキンに自分を重ね合わせて、想像するだけで私心が躍った。しかしそれと同時に、これを履いたら周りの人はどう思うのだろう。普段の自分からは予想外な服装で、イメージが壊れてしまうのではないかと心配だった。出掛ける度に、今日こそ履いてみようとして鏡の前で合わせてみるものの、いざとなると気恥ずかしくなり、そっと棚に戻した。自意識過剰で、誰も気にしないと言えばその通りだが、私にとっては重要なことだった。どうして私はダメージジーンズ一つで、こんなにも様々なことを考えたのか。それは、私自身が作り上げた「自分像」という形には無いものを守ろうとしていたからかもしれない。いや、きっとそうだと思う。

人と言うものは、第一印象や目立つ特徴に引きずられるように、相手の印象を決めつけてしまうようなところがある。そのため、様々な見えにくい側面を見逃してしまうものだ。普段私は、まじめでしっかり者というイメージを持たれているようだが、実は、それに近づけて、期待に応えようと努力している自分があるような気がする。周りとは少し距離を感じて、寂しかったり、窮屈になったりすることも時々あるが、実はそういう自分のイメージに満足しているのだ。でも、これが私の全てではない。派手な「ダメージジーンズ」に心を奪われて、新しいファッションに挑戦したのは事実だ。友達も、口を揃えて「意外だ。」と言うかもしれないが、私にはこんな違う一面もあるのだ。そして、私としては、自分の様々な面を自ら理解することがまずは大切だと思っている。周りの人たちが、どう思うかなんて問題では無い。こんな自分のことをきちんと分かってくれる人も必ずいるはずだから…。そう信じていたい。

最近では、人間には個性や特性があって、その違いをお互いに認め合い、それを活かすことで。世の中が元気になり、社会が発展していくという「多様性」の考え方が重視されているようだ。自分が誰であるのか、どのような人間であるのかは、全て自分次第なのだ。私は私で、あなたはあなた…。

この考え方を通して私は、自分の様々な姿を全て「自分自身」として受け止め、相手の姿

も「あなた自身」として受け止めることにした。それによって、これからの自分の生活は、より良くなると考えたのだ。もっと広い視野を持って社会を見渡そう。

今回の「ダメージジーンズ」を選ぶかどうか迷った自分の経験を通して、大事な発見ができたと思う。周りの人からのイメージを大事にしながらも、自分の心の奥にしまっている「様々なことに挑戦してみたい」という自分を発揮できるようにするため、今まで以上に、心を広く深く生きていく。そう決めたのだ。

今では、何の迷いもなく、「ダメージジーンズ」を履いて、笑顔で出掛けられる私…。